

## 平成25年度東日本大震災支援本部本部員会議における現地派遣職員報告概要

実施年月日	現地での業務	演題	報告の内容
	報告者		
H25.7.2	【担当業務】 被災地における警戒活動	福島県における三重県警察の活動状況について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○検問した車両の多くは、原発の作業関係者のものだった。許可証も立ち入り目的によって多種多様であり、確認に手間取ることもあった。</li> </ul>
	三重県警察 管区機動隊 岡崎 新 警部 (帰任者) (H25.4.2～H25.4.18)		<ul style="list-style-type: none"> <li>○検問は24時間体制で、4月でも夜には雪が降ったりマイナス5度ぐらいになることもあった。</li> <li>○一時帰宅していた住民と会った時には、「地元住民でも避難しているのに、パトロールしてくれてありがたい」とってくれた。</li> <li>○震災後家に引きこもりがちであった小学校低学年ぐらいの子供が、活動している警察官と話をしているうちに元気になってきたということもあった。その子は感謝のメッセージを紙に書いて届けてくれた。</li> </ul>
H25.7.2	【担当業務】 漁港の災害復旧	宮城県への派遣にかかる活動報告 (水産業関連)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成25年度で漁港を震災前の状況に復旧する計画だが、達成は厳しい。</li> </ul>
	農林水産部 水産基盤整備課 西久保 典宏 主査 (宮城県 農林水産部 漁港復興推進室へ派遣) (H24.4.1～H26.3.31)		<ul style="list-style-type: none"> <li>○工事受注者側が手一杯で入札に参加できないので、予算も執行ができていない。資材不足や人手不足といった問題もある。</li> <li>○三重県で大規模災害が将来起こる時に現役である可能性が高い20～30代の職員の派遣が有効である。</li> <li>○三重県から職員が出張てくる時には意見交換や食事をしたりしており、同郷の人たちと会えることで心が癒される。</li> </ul>
H25.9.9	【担当業務】 処理困難廃棄物の処理の調整、災害廃棄物仮置場の返還	岩手県での災害廃棄物処理について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○現在は復興住宅の整備等の課題があって、廃棄物仮置場の土地を早く返して欲しいという声も出ている。</li> <li>○可燃系廃棄物や不燃系廃棄物は順調に処理できているが、これから困ってくるのは津波堆積物や漁具・漁網、処理困難物である。</li> </ul>
	環境生活部 廃棄物対策局 廃棄物リサイクル課 春日井 忍 主査 (岩手県 環境生活部 廃棄物特別対策室へ派遣) (H25.4.1～H26.3.31)		<ul style="list-style-type: none"> <li>○広域処理を行うのに、量が発表値と異なってきたので、精査が必要である。</li> <li>○被災当初は、産業廃棄物処理業者の前に地元の建設業者が率先して仮置き場に搬入した事例があったが、その際にきちんと分別しておけば後の処理が楽になる。</li> <li>○津波による廃棄物は必ず除塩が必要になってくるので、除塩施設を事前に想定しておくことが重要である。</li> </ul>

実施年月日	現地での業務	演題	報告の内容
	報告者		
H25.12.24	<p>【担当業務】 河川及び海岸の災害復旧事業に伴う用地買収</p> <p>総務部 人事課 正木 吉則 主幹 (宮城県 東部土木事務所 用地班へ派遣) (H25.4.1~)</p>	宮城県派遣の業務報告と組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>○津波被害地域で、県土木事業・港湾事業、市町事業、国事業があり、調整に相当の日数を要するので、なかなか詳細設計・用地買収まで進めないケースも多々ある。</li> <li>○班は通常6人ぐらいの体制だが、派遣職員を受けると倍以上の人数になるので、それを束ねるのが難しい。</li> <li>○マンパワーは重要であるが、復旧期、復興期等、時期に応じたマンパワーの質が求められる。</li> <li>○決心→命令→実施のサイクルを早くできることによって、復旧・復興が早く進むと考えている。</li> <li>○組織として、出先の班長・副班長クラスも然り、各階層の幹部職員が、人を動かす術を解し、組織の土壤を醸成するという意識を持たないと、危機管理意識も生まれないし、人数を束ねることも難しい。</li> </ul>
H26.3.24	<p>【担当業務】 治山施設の復旧工事、防潮堤の整備、海岸防災林の基盤整備</p> <p>農林水産部 森林・林業経営課 水上 知之 主査 (宮城県 気仙沼地方振興事務所 農林振興部 森林整備班へ派遣) (H25.4.1~)</p>	被災地の今とこれから	<ul style="list-style-type: none"> <li>○災害の規模に対して技術職員の数が少ない。</li> <li>○短い時間で街づくりをするためには、住民との対話が必要だが、住民は対話に慣れていないと疑心暗鬼になってしまう。対話のある行政をしていくと良い。</li> <li>○地籍調査が進んでいると、復興のスピードが非常に速いので、三重県もできれば津波の浸水区域だけでも地籍調査を進めてほしい。</li> <li>○国・県・市町が一体となって、事業の交通整理ができる組織があるとスムーズに事業を進められる。</li> <li>○復旧・復興には時間がかかるので、事前復興計画を作つておけると良い。</li> </ul>

〈 〉内は派遣期間